

給食検査について

検体持ち込み時の注意点について
基準値を超えた場合の対処法について
新しいサーミスタの使い方について

給食検査の流れ

- 前日までに検査用バッグを自身が希望した受取場所に取りに行く。
- 給食検査（施設設備、聞き取り、食器検査）。
- 検査後、検体と報告書を自身が希望した場所（相模原市薬剤師会事務局または南メディカルセンター生化学検査室）に持ち込む。
- その後、給食班がサニタ君の中身の液体を培地にて培養する。
- 基準値を超えた場合はTELが来る。

※検査翌日の昼頃は連絡が取れるようにしてください。

サニタ君の中身って提出後どのように検査してるの？

- 空気清浄機を作動、孵卵器を35°Cに設定。
- 机の上や使用するものを消毒
- 検体番号を読み上げ、チェックする。
- サニタ君の外側を消毒、検体番号を培地に書き込む。
- サニタ君の中にある液体を、検体ごとに一般細菌用培地と大腸菌群の培地に滴下（20滴）
- しっかり止めて、孵卵器へ



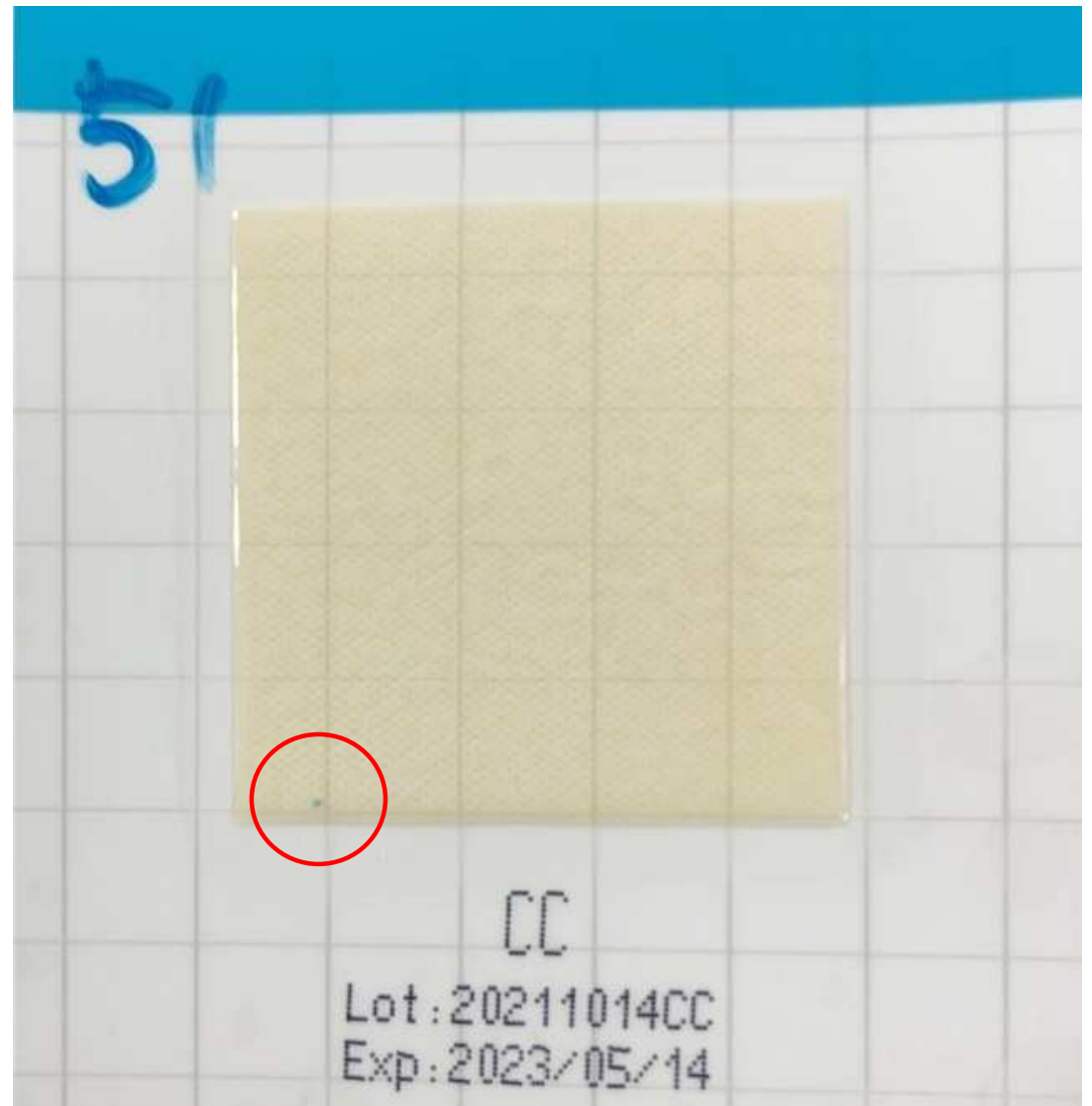
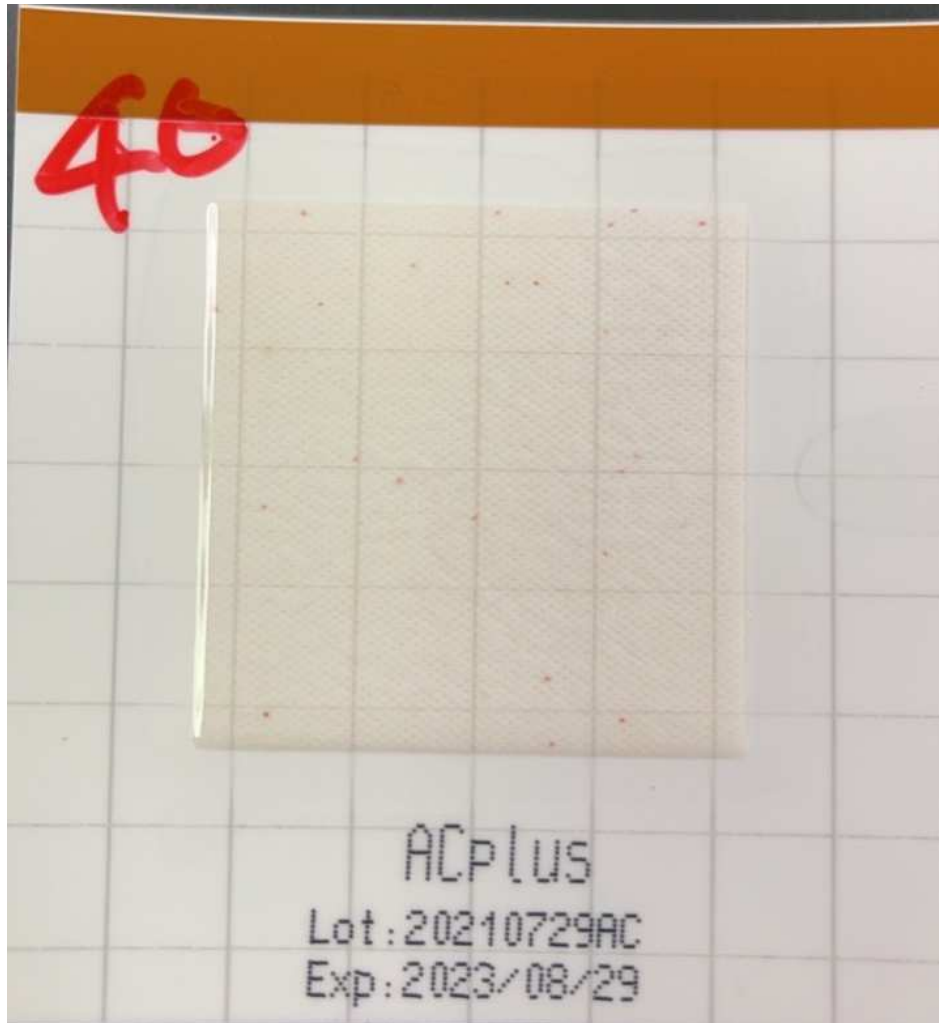
孵卵器に並べられる時の配置



- 孵卵器に並べ、24時間培養する
(48時間培地の場合もある)
- 24時間±1時間 (48時間±2時間)
後に孵卵器から出し、判定を行う。



陽性の培地例



一般細菌は赤い点、大腸菌群は青い点が出る。
(1個の点で10コロニー)

注意してほしいこと



- 検査前に、必ずサニタ君用の酒精綿で拭く
- チャック付き袋（透明のユニパック）に入れて持ち帰る。
- **サニタ君の蓋をきちんと締める**

←このような状態で届いた検体がありました。細菌検査陽性だった場合、原因が特定できません。

（食器ではなく検査した薬剤師が原因であることを否定できない）

基準を超えてしまった時 【一般細菌編】

①サーミスタを使用して、熱風消毒保管庫の温度が適切な温度になっているかを確認。

→栄養士の先生に電話し、結果を伝える。

再検査の日時を決め、サーミスタ装着。

翌朝、サーミスタをはずし、サニタ君で検体採取。

事務局にデータを持ち帰り、PCにて結果を確認。

②検査結果に応じた対応

→温度問題なし、再検査問題なし→学校・薬剤師会に報告（報告書を記載）

温度問題あり→学校に伝え、熱風保管庫の点検業者を依頼するように指示

→必要あれば修理→①に戻り3次検査

温度問題なし、再検査が基準値オーバー→原因考察、要相談

基準を超えてしまった時 【大腸菌群編】

すぐに学校へ連絡、該当食器を塩素消毒するよう指示。
判定当日（金曜日）または判定翌日（土曜日）に
サーミスタ取り付けをする。

※月曜から給食続行できるのか中止なのか、土日の中に
判断できなければならない

※結果によっては、学校薬剤師と栄養士は土日にも動く
必要あるため、予定には気を付けてください。
また、栄養士にも検査時に周知をしてください。

サーミスタ取り付け後の流れは一般細菌と同様。

サーミスタが変わりました

★新しいサーミスタでの注意点★

- ・センサーが長いため、**消毒を徹底**する。
- ・**食器が入った状態**で子機のセンサー部分を6箇所に置く。
- ・親機は保管庫近くに置いてくる（**150m以内**）
- ・取り外し時に結果がすぐ見れないため、**必ず検体を取ってくる**。
- ・データを事務局PCに取り込み、**自身で確認**。

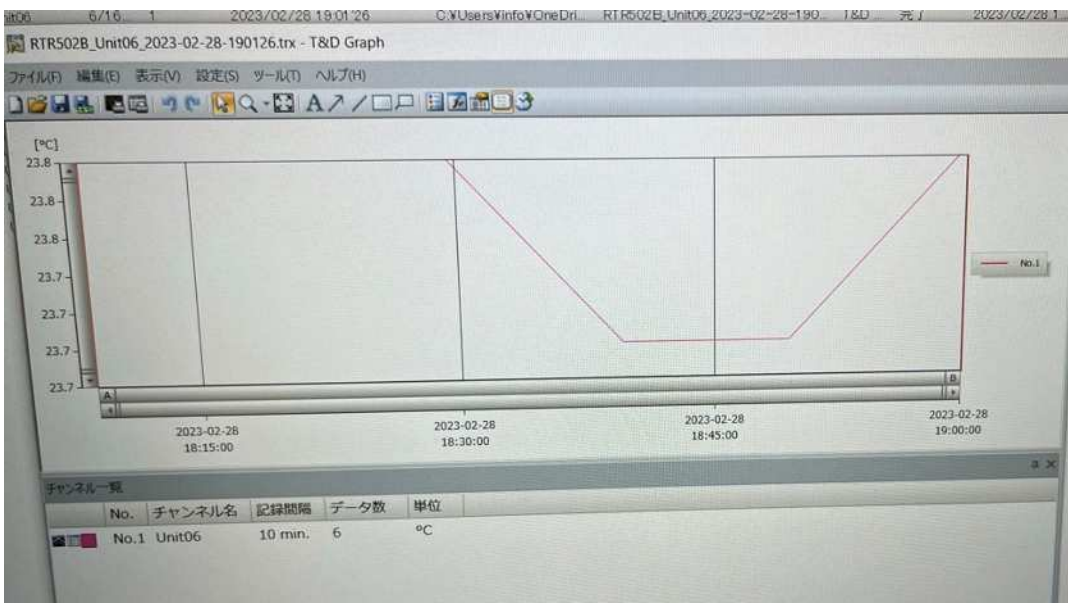
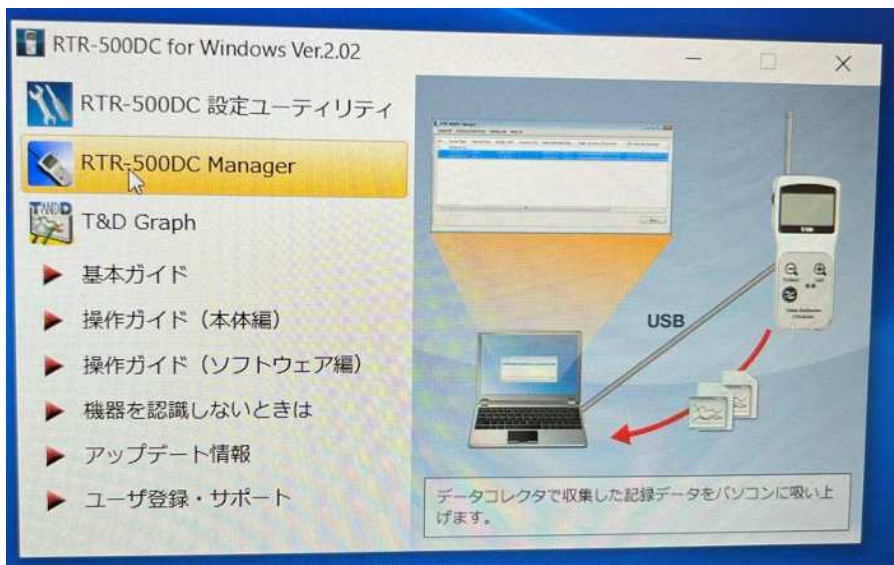
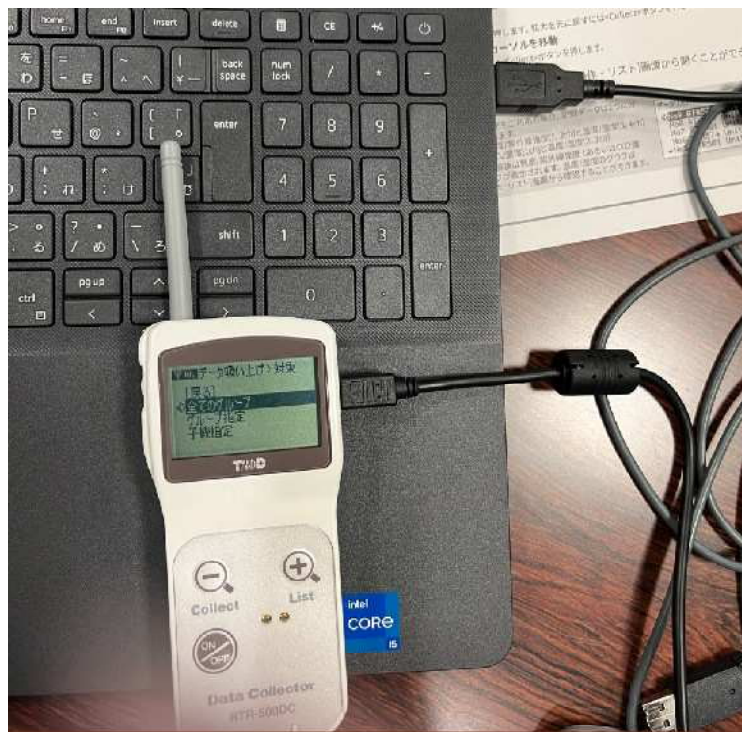
※データ取り込み方法や接続方法は、マニュアルを参照すること。サーミスタと一緒にマニュアルを保管予定。



↓子機 (6台)

↑親機 (1台)

センサー (要消毒)



連絡事項

環境検査、給食検査の新人研修

5月21日（日）午前中実施します。

必ず出席してください。